

櫻風工房・建築構想

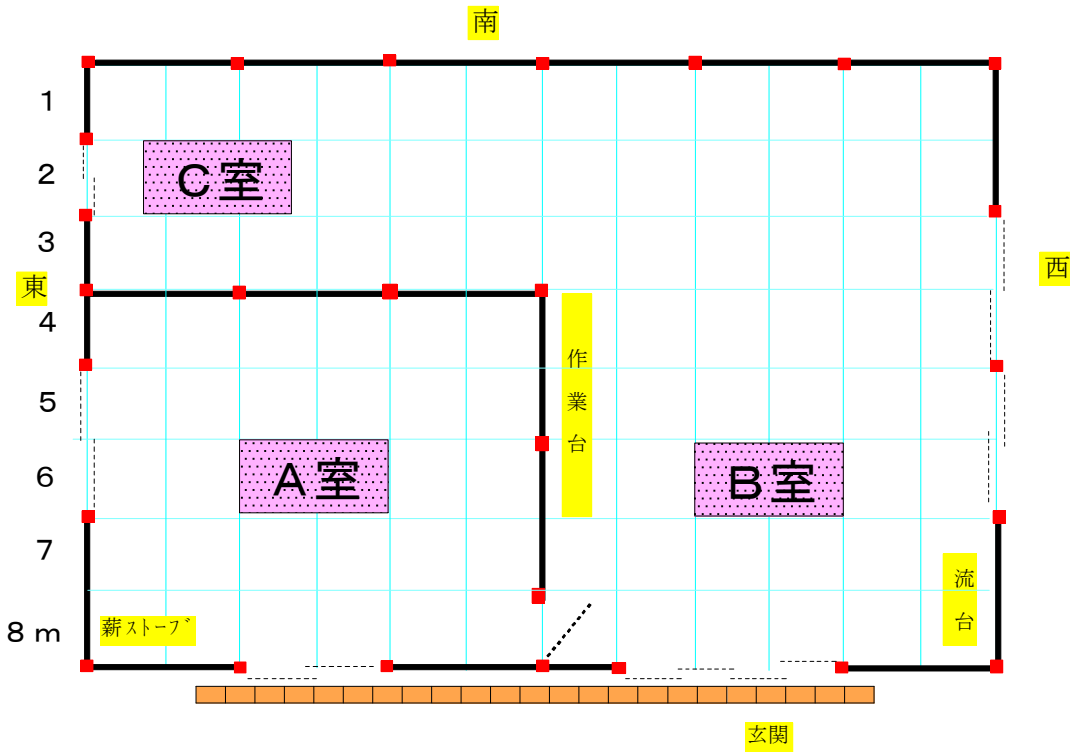
外注工事について

- 1) 用途
 - ・ 仏教書図書館
 - ・ 櫻風書房 出版業務スタジオ
 - ・ イベント小会場
 - ・ 木工&陶芸工房
 - ・ **災害時の支援基地**
 - 2) 横幅 12 m × 奥行き 8 m (96㎡ 29.09坪)
 - 3) 木造・片屋根造り・断熱材
 - 4) 外装・耐火外装板・断熱材
 - 5) 内装A室・真壁(柱: 桧4寸角) 内装をふくまず
B室・大壁・南側のみ石膏ボード貼りまで
 - 6) 電気配線・給排水配管・換気扇配線は済ませる。
 - 7) 内装大工工事は自分でしております。
 - 8) 「**櫻風**」の名称の由来: 工房の南側の元山田町役場(現山田総合支所)の東隣に、西南戦争から太平洋戦争までの戦没者忠霊塔があります。岡は櫻で囲まれていて、葉ずれの風音がさわやかです。
- 注) これまで正定寺がおこなった工事に祖父の代から受け継いだ杉山を伐採して用材にしました。工事が終わると余った材木が、現在の「有楽庵」をうめてしまいました。邪魔でしょうがないので、これを使い切って、かねてからの構想を実現することにしました。

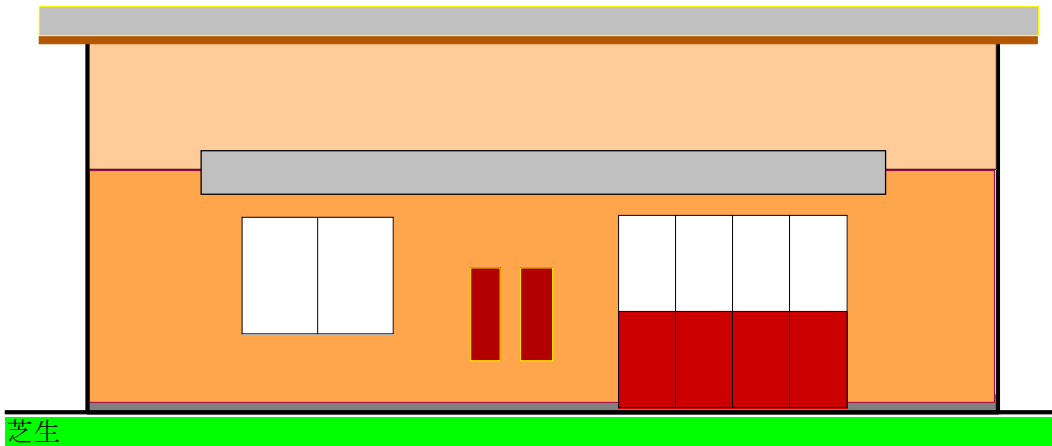
櫻風工房のすすみぐあい

- 2015/07 住職設計完了
- 2015/10 外装工事完了
屋根・外壁・サッシ・電気水道配管まで終了
- 2018/09 A室床・杉浮造り板貼り工事終了
- 2020/05 木工電動工具に3寸角の土台をつけ。キャスター可動式にしました。スライド丸ノコ・テーブルソー・バンドソー・角ノミ・自動カンナの作業面の高さを70cmにそろえました。木材の上げ下げ作業が少なく、腕や足腰の負担が軽くなりました。
「**陶芸**」幼稚園時代に使っていた陶芸用土練機・電動ロクロ・ポットミルにもキャスター取り付け完了。どれも業務用の鉄の塊、とても重いのです。どの機材も使わないときはC室に押し込むことで、空間が確保でき、可動式にしたことで掃除も作業も楽になりました。陶芸復活はまだ先のこと。
- 2020/06 「**有楽庵**」の片付け、棚づくり完了。歩けないくらい土間に物が散らかっていたのです。
- これから** 「**櫻風工房**」の内装・壁板貼り工事にかかります。
「**有楽庵**」は、故障して点灯しない照明の取り替えと、不良コンセントの交換です。
住職の独りDIYとお小遣い工事ですから、亀のようにのろいのです。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 11 12 m

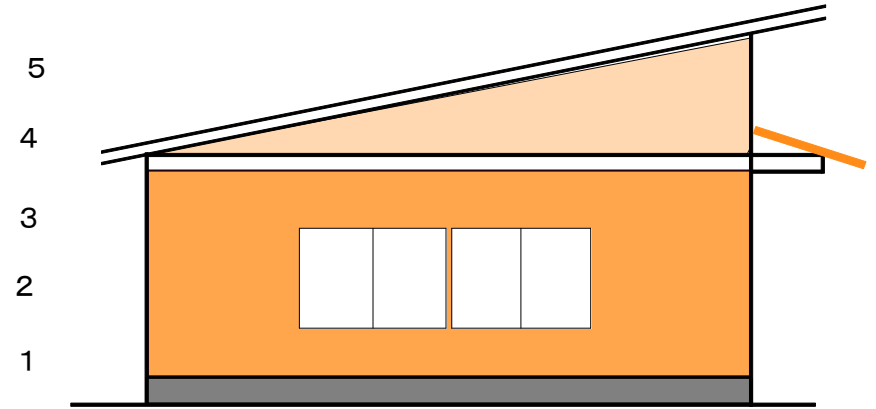


北

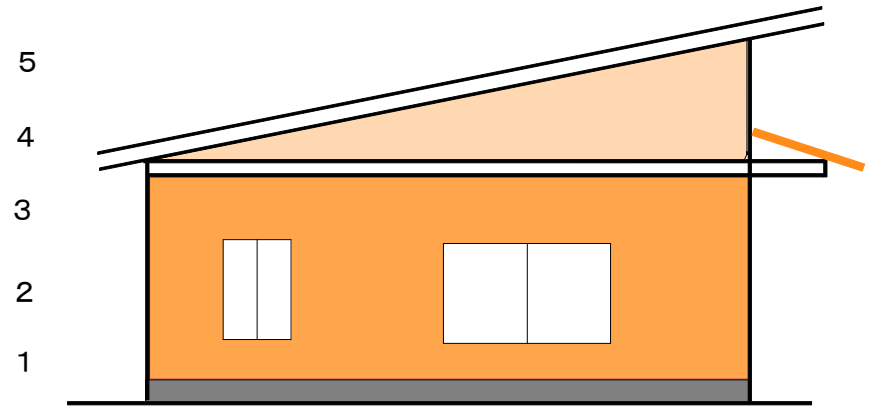


北からみた姿図

8 7 6 5 4 3 2 1



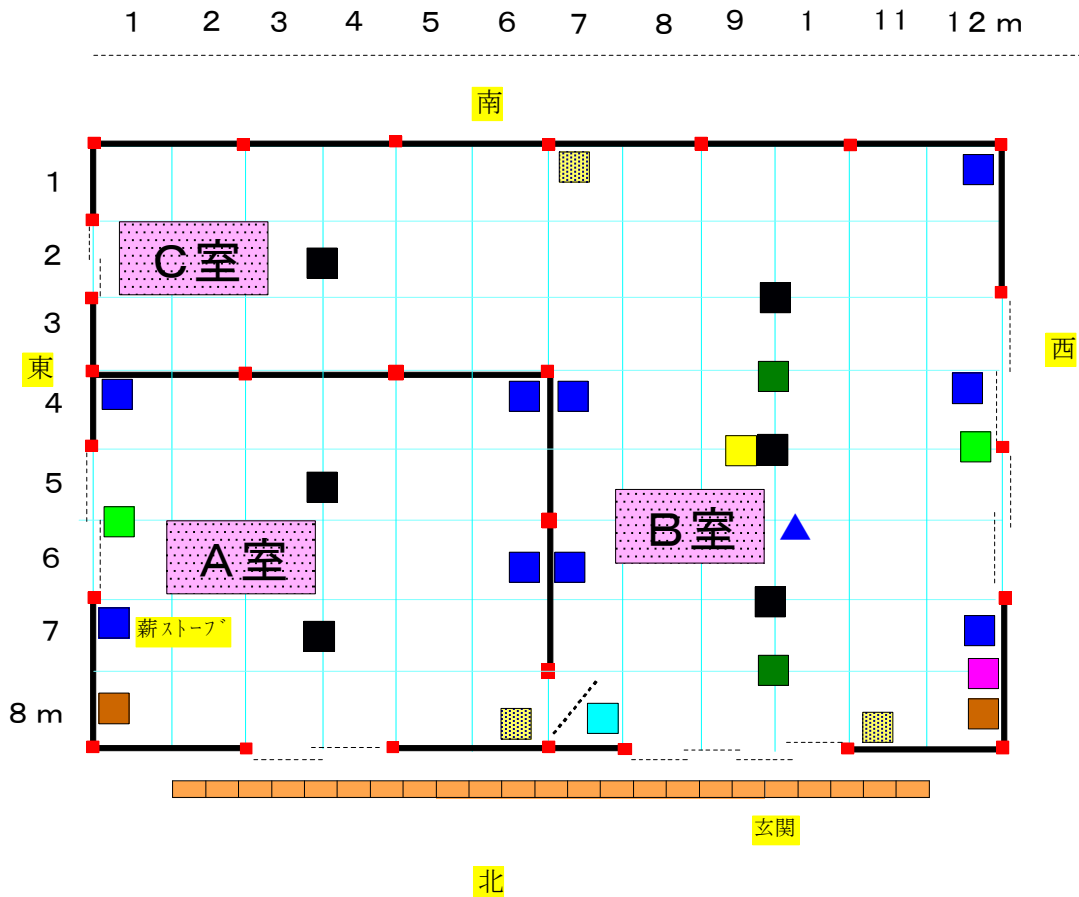
西からみた姿図



東からみた姿図

樗風工房 設計図

2015/07 住職設計完了

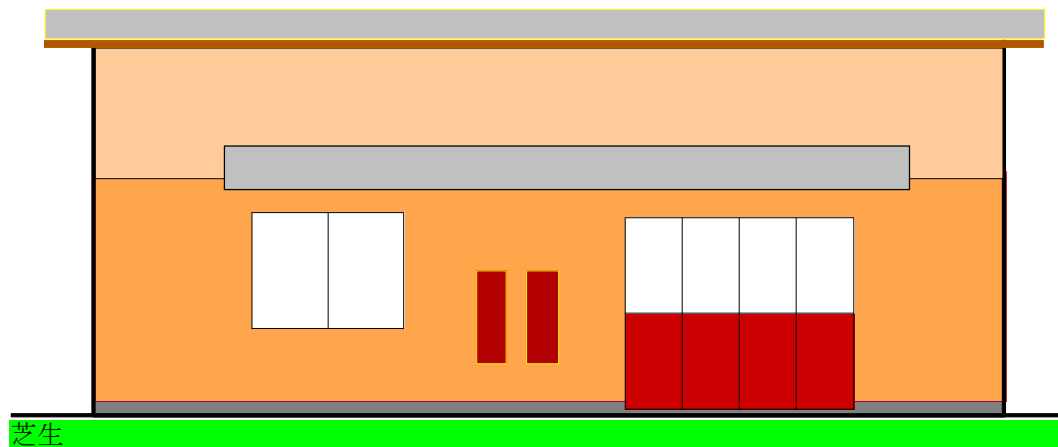


■ 分電盤の六系統の分け方

- 1 : 全館の照明電源 (A・B・C)
- 2 : A室・C室のコンセント電源 (A室埋設電源をふくむ)
- 3 : 予備
- 4 : 電気陶芸窯または大型工作機械用 3相200V
- 5 : B室の工作機械電源 (B室埋設電源をふくむ)
- 6 : B室の工作機械電源

5・6の系統は、ふだんは分電盤の電源をOFFにしておく。限られた人が工作機械を使用する時だけ、分電盤の電源をONにする。

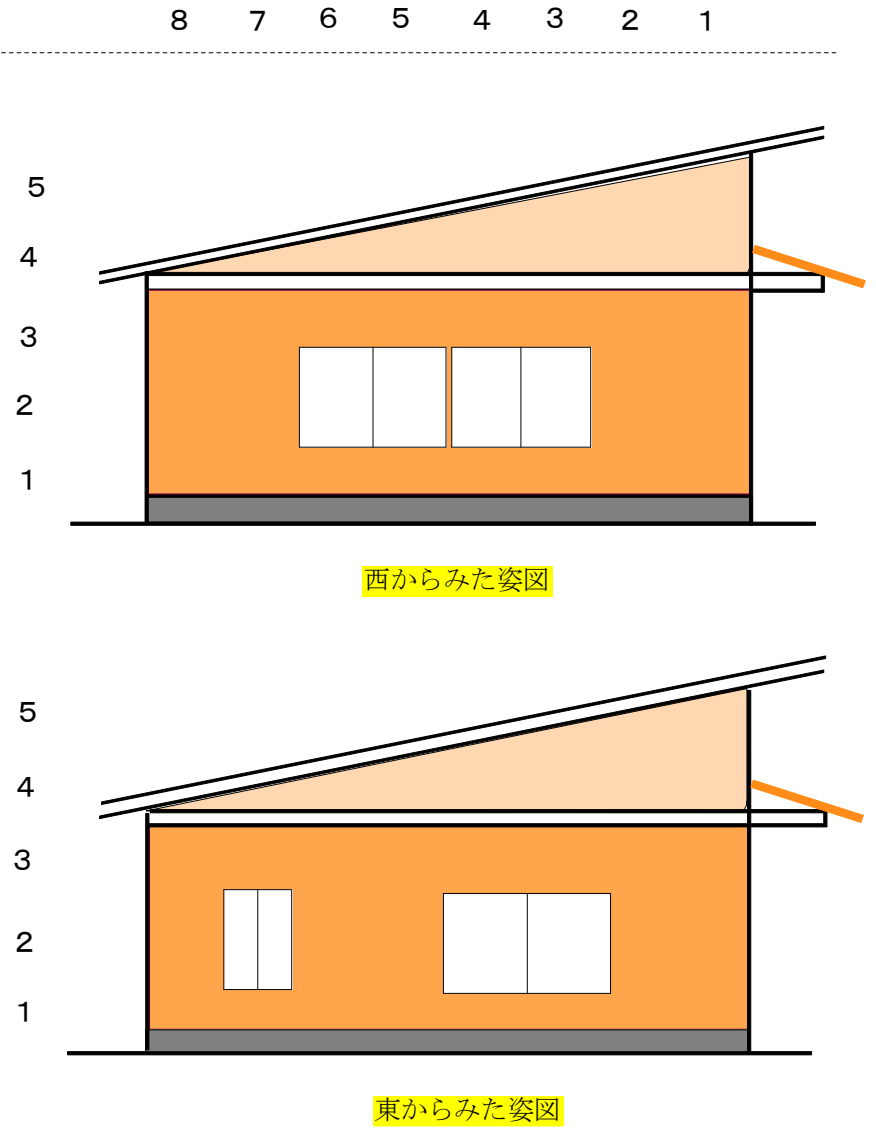
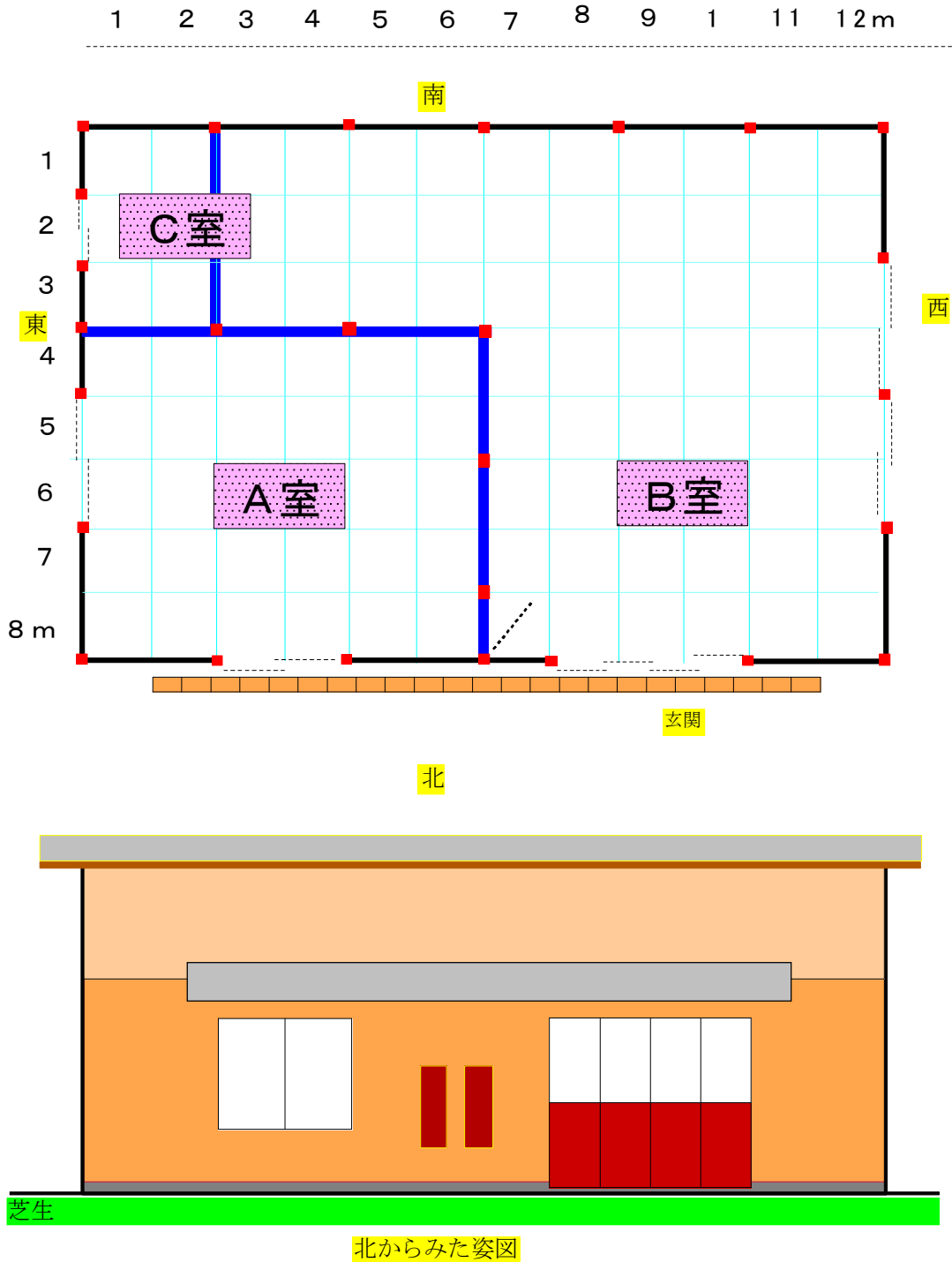
注： 万一の事故防止のため帰宅するとき、現場を離れるときは、電動工具のコンセント電源をぬき、分電盤のブレーカーをすべて落とすことにしています。



北からみた姿図

樗風工房 設計図 照明・電気配線図

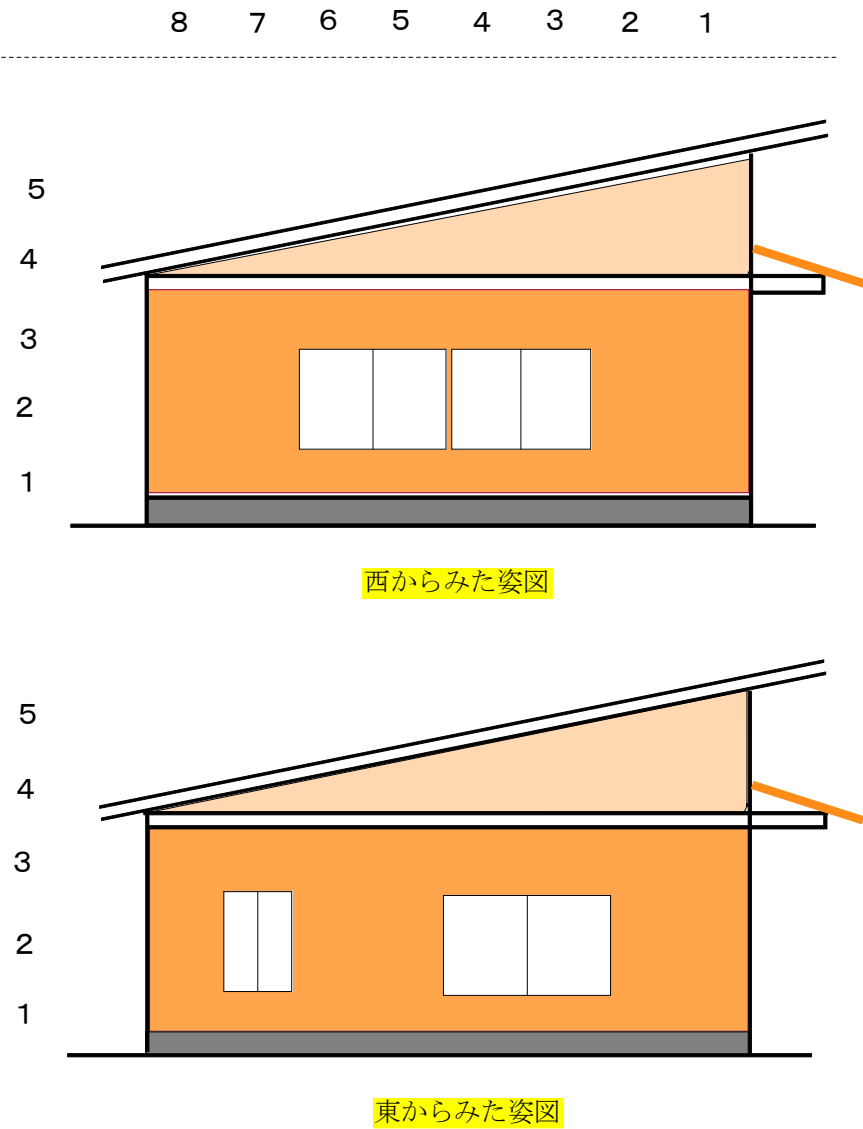
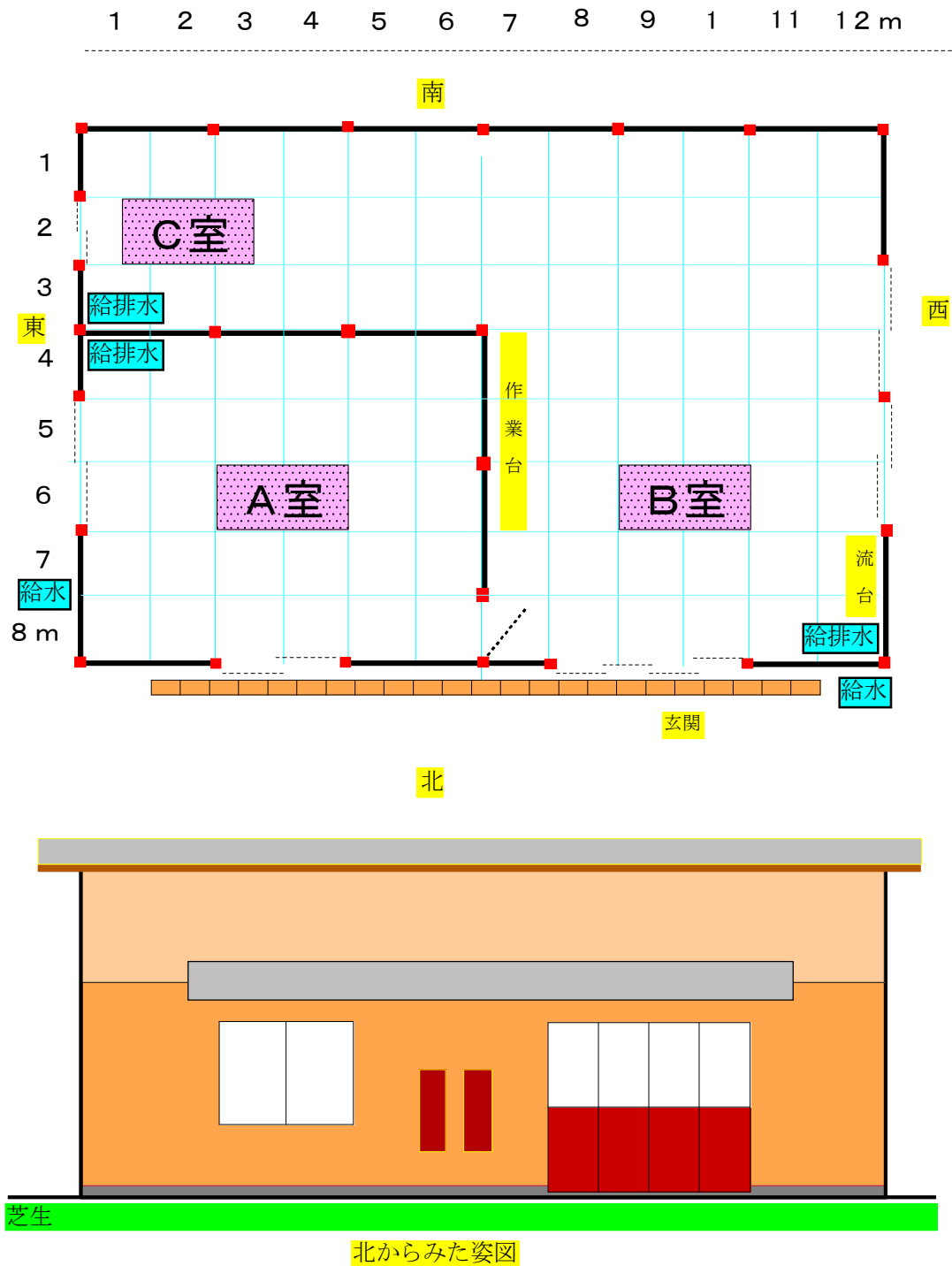
- 分電盤 ■ 天井照明 ■ 壁照明 ■ 壁換気扇
- 壁コンセント ■ 天井コンセント ■ 天井扇
- ▲ 床埋設コンセント ■ エアコン予備電源
- 電源スイッチ場所 ◎ 予備：3相200V



樗風工房 設計図

コンクリートアンカー敷設図

— 線上900mmおきに埋設 深さ100mm



櫛風工房 設計図

給排水配管位置図